稲作だより

第３号
令和７年４月 14 日発行
やまがた温暖化対応
米づくり日本一運動
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8301

４月下旬も高温が続く予報！適切な温度管理を徹底しましょう！

健苗育成のポイント

1　低めの温度管理で、ずんぐりした丈夫な苗に！

・徒長苗は、活着、分げつが遅れるため、苗を伸ばしすぎないようにしましょう。

【育苗時の適切な温度と注意点】

生育時期別の温度		昼 間	夜 間	管理のポイント
出芽期	加温出芽	30～32℃：2日程度		○無加温では出芽が揃うように、保温資材を活用するなど、こまめな温度管理を行う。【高温障害に注意！】
	無加温出芽	日中：35℃以下 （約1週間）		
緑化期（1.0葉期） （出芽後3日程度）		25～30℃	15℃	○外気温が25℃以上の日は要注意。 午前中の早い段階でハウスを開ける。 ○翌朝に霜が予想される場合は、夕方の早い段階でハウスを閉める。
緑化期以降		20～25℃	8℃以上	

2　かん水は朝１回たっぷりと！

・夕方のかん水は床土の温度が下がり、根張り不良となるため避けましょう。

・プール育苗の場合は、1.5 葉期から入水（床土の高さまで）します。２葉期以降は、育苗箱の上１cm 程度の水深で常時湛水とし、ハウス内温度を慣行より低めに管理し徒長を防ぎましょう。

3　追肥を行い栄養状態が良い苗に！

・適切に追肥を行い、苗の老化を防ぎましょう。

・育苗土に緩効性肥料（育苗一発肥料）を使用した場合は、追肥は不要です。

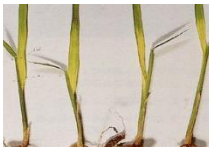
【追肥の時期と追肥量の目安】

苗の種類	育苗期間	追肥時期	施肥量(窒素成分量)
稚苗 （2.5葉）	20～25日	1.8葉期	1g/箱
中苗 （3.5葉）	30～35日	1回目：2.0葉期	
		2回目：3.0葉期	

STOP！農作業事故　トラクターの転落･転倒に注意！
春季農作業事故防止運動強化期間（4/1～6/10）
農薬はラベルを読んで適正に使用しましょう！

育苗期間中の病害対策

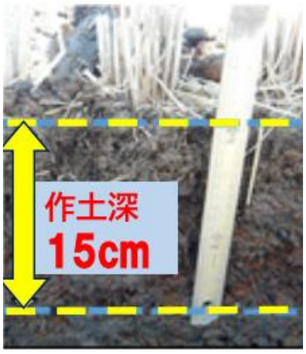
病害を発生させないためには、温度管理やかん水を適切に行うことが大切です。
カビの発生や生育異常が見られた場合は、普及課、JA に早めにご相談下さい。

病原菌	主な症状		発生条件	発生抑制のポイント
フザリウム	白色～淡紅色のカビが発生		緑化期の低温、湿度の変動が大きい	○低温をさけ、適切な温度を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない。ムレ苗 2 葉期頃に葉の萎凋症状			
リゾプス	種子、芽の周辺に白いカビ、根の伸長停止、葉の黄化		出芽時の高温多湿	○33℃以上の高温、多湿にしない
トリコデルマ	床土や籾の周辺に白色～青緑色のカビ		水分不足 育苗土の低 pH	○33℃以上の高温、多湿にしない
苗立枯細菌 もみ枯細菌	第 2 葉の葉身基部が黄白化 枯死、坪枯れ		高温、多湿	○高温多湿にしない ○**発生した場合は苗を処分**

基肥施用・耕起のポイント

・**過剰基肥は品質、食味が低下**します。品種や地力に応じた適正な施肥を行いましょう！
・基肥一発肥料を用いる場合は、品種ごとの基準量（基肥+追肥）を超えないようにします。
・「つや姫」は食味・品質を優先し、玄米タンパクが高い場合は若干減肥しましょう。
・「雪若丸」の標準基肥施肥量は 4～5kg ですが、地力の低い田んぼでは 6kg とします。

【品種ごとの基肥施肥量の目安】

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	ひとめぼれ	あきたこまち
窒素成分量 （kg/10a）	5～6	3～4	4～6	3～4	4～5	5～6

・**作土深が浅いと根域が狭くなり、品質・収量が低下しやすく**なります。登熟期の高温に負けない稲にするために、**15cm 以上の作土深を確保**しましょう！
・耕起スピードが早く、作土深が浅くなっている例が見られています。**ゆっくり丁寧な耕起**で、目標とする作土深 15 ㎝を確保しましょう。